2022年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	児童福祉論（Child welfare A (Outline)）		
ナンバリングコード	E20907	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 専門科目 / 標準レベル 社会福祉
単位数	2	配当学年 / 開講期	3 年 / 前期集中
必修・選択区分	選択：経営経済学部 コース選択必修：情報メディア学科 情報コミュコース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	E041801	クラス名	2020以前学生用
担当教員名	鍋田　耕作		
履修上の注意、 履修条件	社会福祉士国家試験受験資格取得に必要な科目です。 聴くこと、見ること、調べること、そして、真剣に考え取り組むことを心がけてください。		
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編　新・社会福祉士養成講座15『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』第7版　中央法規出版		
参考文献及び指定図書	社会福祉士養成講座編集委員会編　新・社会福祉士養成講座15『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』 第7版中央法規出版		
関連科目	社会福祉原論、相談援助の基盤と専門職、相談援助の理論と方法、地域福祉論、社会保障論など		

○基本情報		
授業の目的	「社会福祉士養成施設及び介護福祉士養成施設の設置及び運営に係る指針について」により、社会福祉士国家試験受験資格を得るために、以下の内容を理解することが求められています。 ①児童・家庭の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解する。 ②児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する ③児童の権利について理解する。 ④相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解する。	
授業の概要	地域社会における児童・家庭の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解を深めるとともに、児童・家庭福祉制度の発展過程、児童の権利、児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について考察を行います。 地域の抱える課題・ニーズに対して、理解を深めていきます。	
授業の運営方法	（1）授業の形式	「講義形式」
	（2）複数担当の場合の方式	「該当しない」
	（3）アクティブ・ラーニング	「該当なし」
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
実務経験のある教員による授業科目	該当なし	

○成績評価の指標		○成績評価基準（合計100点）		
到達目標の観点	到達目標	テスト（期末試験・中間確	提出物（レポート・作品等）	無形成果（発表・その他）
【関心・意欲・態度】	地域社会における課題・ニーズに対し、関心持つとともに地域での生活者の一人として意識することができる。		20点	
【知識・理解】	①児童・家庭の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、福祉需要②児童・家庭福祉制度の発展過程 ③児童の権利④児童家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解している。	40点		
【技能・表現・コミュニケーション】	現代社会における子ども家庭が置かれている状況および課題について説明することができる。		20点	
【思考・判断・創造】	現代社会における子ども家庭が置かれている状況および課題について考察することができる。		20点	

○成績評価の補足（具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法）
講義内容についての考察（学修に取り組む姿勢・意欲）及び内容（専門知識の活用等） [Sレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。 講義内容に関する意見交換について、次回以降の講義時間内にフィードバックを行う。

○その他
講義内容については，進行状況等により変更する場合があります。

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科 目 名	児童福祉論 (Child welfare A (Outline))	授業コード	E041801
	担当教員	鍋田　耕作		

学修内容

1. 子どもの権利とは？ 「生きる」とはどのようなことなのか？について、「子どもの権利」という視点から考察を深めていきます。また、「子ども」の「最善の利益」とは何か？についても考察していきます。		
予習	子どもの権利について事前学習	約2時間
復習	確認テストの実施	約2時間
2. 現代社会と子ども家庭①子どもの育ち、子育てをめぐる諸相 児童・家庭の生活実態とこれらを取り巻く社会情勢、福祉需要と実態について現状を把握していきます。		
予習	児童家庭福祉分野におけるニーズについて事前学習	約2時間
復習	確認テストの実施	約2時間
3. 現代社会と子ども家庭②子どもの育ち、子育てをめぐる社会の変容 児童・家庭を取り巻く環境・ニーズの変化に対する政策の展開について考察を深めていきます。		
予習	児童家庭福祉分野におけるニーズに対する政策について事前学習	約2時間
復習	確認テストの実施	約2時間
4. 現代社会と子ども家庭の課題①子育てをめぐる現状 少子化の現状と要因について理解を深めていきます。特に背景となる雇用形態や働き方についてワーク・ライフ・バランスの視点から考察を深めていきます。		
予習	少子化の要因について事前学習	約2時間
復習	確認テストの実施	約2時間
5. 現代社会と子ども家庭の課題②子育てをめぐる課題の要因 少子化の現状と要因について理解を深めていきます。特に背景となる雇用形態や働き方についてワーク・ライフ・バランスの視点から考察を深めていきます。		
予習	ワークライフバランスにおける政策について事前学習	約2時間
復習	確認テストの実施	約2時間
6. 福祉原理と子ども家庭福祉の理念①児童の定義、児童家庭福祉の理念 「子ども」とは何か？児童家庭福祉とは何か？について児童福祉法や日本国憲法、権利条約等の理解を深めていきます。		
予習	日本国憲法第25条の内容と特徴および児童福祉法第1条・第2条の内容と特徴について事前学習	約2時間
復習	確認テストの実施	約2時間
7. 福祉原理と子ども家庭福祉の理念②子どもと家庭の権利保障 「子ども」という存在がどのように理解されていたのかなどを権利保障の歩みから考察を深めていきます。		
予習	児童権利宣言および児童の権利に関する条約の内容と特徴について事前学習	約2時間
復習	確認テストの実施	約2時間
8. 子ども家庭福祉制度の発展①日本の児童・家庭福祉の歴史 日本における児童・家庭福祉の法制度がどのように形成されてきたのかを歴史的背景に基づきながら理解を深めていきます。		
予習	児童福祉法制定の背景および今日的な児童家庭福祉の役割と目的について事前学習	約2時間
復習	確認テストの実施	約2時間

○授業計画	科 目 名	児童福祉論 (Child welfare A (Outline))	授業コード	E041801
	担当教員	鍋田　耕作		

学修内容

9. 子ども家庭福祉制度の発展②諸国の児童・家庭福祉の歴史 諸国における児童・家庭福祉の法制度がどのように形成されてきたのかを歴史的背景に基づきながら理解を深めていきます。		
予習	諸外国における児童福祉の展開について事前学習	約2時間
復習	確認テストの実施	約2時間
10. 子ども家庭福祉にかかわる法制度 子ども家庭福祉の法体系について、具体的に法の理念や目的等について理解を深めていきます。		
予習	児童家庭福祉に関わる法律・制度について事前学習	約2時間
復習	確認テストの実施	約2時間
11. 子ども家庭福祉制度における組織及び団体、専門職の役割と実際 児童福祉サービスの体系、児童福祉行政の機関、児童福祉施設等、児童福祉の実施体制等について学び、各種の福祉サービスが計画的・総合的に推進されていることを理解する。 また、児童家庭福祉にかかわる行政機関および民間の児童福祉施設における専門職の役割と実際について理解を深めていきます。		
予習	福祉サービス提供組織における専門職の種類と役割について事前学習	約2時間
復習	確認テストの実施	約2時間
12. 子ども家庭福祉制度における他職種連携・ネットワーキングと実際：児童虐待 児童虐待の対応を例に挙げ、他職種連携・ネットワーキングの実際について理解を深めていきます。		
予習	児童相談所における相談対応の内容や職種の役割について事前学習	約2時間
復習	確認テストの実施	約2時間
13. 子ども家庭福祉制度における他職種連携・ネットワーキングと実際：DV① ドメスティック・バイオレンス（DV）の対応を例に挙げ、他職種連携・ネットワーキングの実際について理解を深めていきます。		
予習	DV防止法の目的と制定の背景について事前学習	約2時間
復習	確認テストの実施	約2時間
14. 子ども家庭福祉制度における他職種連携・ネットワーキングと実際：DV② ドメスティック・バイオレンス（DV）の対応を例に挙げ、他職種連携・ネットワーキングの実際について理解を深めていきます。		
予習	DV対応の内容と専門職の役割について事前学習	約2時間
復習	確認テストの実施	約2時間
15. 子どもの貧困問題 OECD（経済協力開発機構）の調査によると、日本の子どもの貧困率は世界的にみても高い水準にあります。貧困の連鎖をどのように防ぐのかなど、考察を深めていきます。		
予習	絶対的貧困と相対的貧困の違いと日本における子どもの貧困率の現状について事前学習	約2時間
復習	確認テストの実施	約2時間
16. 期末試験 試験を実施します。		
予習		
復習		